

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	小学校 I C T 環境整備事業	担当課	教育指導課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 6年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意的事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100202-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、児童の学習意欲を高め、思考を深め表現力を上げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p>	<p>児童一人1台コンピュータ、校務用パソコン、授業用パソコン、電子黒板、インターネット接続環境、授業・校務支援システム等の維持を図る。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>GIGAスクール構想により高速大容量通信ネットワーク、児童一人1台タブレット端末を整備し、情報活用能力の向上を図り、多様な児童を誰ひとり取り残すことのない、公平に個別最適化された学びを持続的に実現させる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>I C T 教育環境を有効活用するために、教職員の I C T 機器等に開する活用能力向上が更に必要となっている。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>I C T 機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>I C T 支援員と連携を図り、年間を通じて教職員の I C T 機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施する。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット等の I C T 機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行う。</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>導入した I C T 機器を教育環境を最大限に活用し、教職員の児童に対する指導能力の向上を図る。</p> <p>リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/> 増加</p> <p><input type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p>	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度の取組（評価、課題への対応）
<p>ICT教育環境を有効活用するために、教職員のICT機器等に関する活用能力向上が更に必要となっている。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>ICT機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>ICT支援員と連携を図り、年間を通じて教職員のICT機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施した。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット端末等のICT機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行ってきた。</p> <p>教職員のICTを活用した授業も多く展開されるようになった。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
児童用コンピュータ整備数（児童数／台数）（人）	10.00	3.10	3.10	3.10	1.00	1.00	1.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>各訪問の際に、各校の課題に応じて、教職員への指導・助言を行い、教職員の資質向上を図った。</p> <p>学校教育改革プランの1つであるプログラミング教育を中核とした情報教育総合プランである守谷型Edtecを各学校で推進するとともに、GIGAスクール構想の円滑な実施に向けた準備を行った。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>情報教育関係は、日々、機器や学習支援ソフトが更新している状況である。教職員への研修や機器の整備の充実が欠かせない。</p> <p>守谷型GIGAスクール構想を実現するために、ICT機器を教育現場でどのように活用していくかが重要であり、学校と連携し特別チームをつくる等の対応が必要である。</p>					

コストの推移						
項目	R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込	
事業費	計	133,737	433,716	238,353	149,913	177,606
	国・県支出金	0	1,004	2,331	0	0
	地方債	0	58,200	0	0	0
	その他	0	182,694	88,016	35,205	35,205
	一般財源	133,737	191,818	148,006	114,708	142,401
正職員人工数（時間数）	380.00	0.00	1,788.00	0.00	0.00	
正職員人件費	1,559	0	6,918	0	0	
トータルコスト	135,296	433,716	245,271	149,913	177,606	

令和 3 年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	中学校 I C T 環境整備事業	担当課	教育指導課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 6 年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意的事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100302-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、生徒の学習意欲を高め、思考を深め表現力を上げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p>	<p>生徒一人1台コンピュータ、校務用パソコン、授業用パソコン、電子黒板、インターネット接続環境、授業・校務支援システム等の維持を図る。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>GIGAスクール構想により高速大容量通信ネットワーク、生徒一人1台タブレット端末を整備し、情報活用能力の向上を図り、多様な生徒を誰ひとり取り残すことのない、公平に個別最適化された学びを自立的に実現させる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>I C T 教育環境を有効活用するために、教職員の I C T 機器等に關する活用能力向上が更に必要になってくる。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>I C T 機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>I C T 支援員と連携を図り、年間を通じて教職員の I C T 機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施する。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット等の I C T 機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行う。</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>導入した I C T 教育環境最大限に活用し、教職員の生徒に対する指導能力の向上を図る。</p> <p>リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/> 増加</p> <p><input type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p>	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度の取組（評価、課題への対応）
<p>ICT教育環境を有効活用するために、教職員のICT機器等に関する活用能力向上が更に必要となっている。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>ICT機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>ICT支援員と連携を図り、年間を通じて教職員のICT機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施した。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット端末等のICT機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行ってきた。</p> <p>教職員のICTを活用した授業も多く展開されるようになった。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
生徒用コンピュータ整備数（生徒数／台数）（人）	6.00	2.90	3.00	3.00	1.00	1.00	1.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>各訪問の際に各校の課題に応じて、教職員への指導・助言を行い、教職員の資質向上を図った。</p> <p>学校教育改革プランの1つであるプログラミング教育を中核とした情報教育総合プランである守谷型 E d t e c を各学校で推進するとともに、G I G A スクール構想の円滑な実施に向けた準備を行った。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>情報教育関係は、日々、機器や学習支援ソフトが更新している状況である。教職員への研修や機器の整備の充実が欠かせない。</p> <p>守谷型G I G A スクール構想を実現するために、ICT機器を教育現場でどのように活用していくかが重要であり、学校と連携し特別チームをつくる等の対応が必要である。</p>					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	62,364	192,213	85,048	65,331	77,639
	国・県支出金	0	446	1,128	0	0
	地方債	0	24,600	0	0	0
	その他	0	80,098	18,530	10,600	10,600
	一般財源	62,364	87,069	65,390	54,731	67,039
正職員人工数（時間数）		344.00	0.00	1,429.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,411	0	5,529	0	0
トータルコスト		63,775	192,213	90,577	65,331	77,639

令和3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	外国語教育推進事業	担当課	教育指導課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成13年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意的事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100103-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>国際化が進展し、国際理解の必要性や国際社会で活躍できる人材育成が求められる中、生きた外国語に触れ、充実した外国語教育を推進することを目的に、中学校への外国語指導助手（ALT）の派遣が開始され、平成13年度から他自治体に先駆けて全小中学校に配置した。</p> <p>平成23年度の学習指導要領改定に伴い、小学校5、6年生で外国語活動が必修化され、平成23年度に文部科学省教育課程特例校の指定を受</p>	<p>外国語教育を推進するため、市内小中学校に19人のALTを配置し、業務を委託する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、1、2年生の英語活動、3、4年生の外国語活動、教科化され授業時数も増加した5、6年生の外国語科の全ての授業にALTが参加し、児童とコミュニケーションを図る。大規模校2校には各2人配置する。 ・中学校では、生徒一人一人の言語活動を充実させるため、全中学校に各2人配置する。 ・授業以外にも、給食を一緒に食べたり、休み時間等を共に過ごしたりすることで国際教育の充実を図る。 <p>中学2年生においては、オンライン英会話を年10回実施し、更なるコミュニケーションの向上を図る。</p> <p>学校休業日に英語に親しむ機会を提供し、児童生徒の学習意欲の向上を図る。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>「英語で発信し合える児童生徒」の育成を目指し、小中学校の継続性を重視した外国語教育及び国際教育を推進する。小中学校ともに英語を母国語とする外国人との日常的なふれあいを通して、国際教育の充実を図る。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>グローバル化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>本年度（令和2年度）の小学校新学習指導要領の完全実施による授業数の増加、来年度（令和3年度）の中学校新学習指導要領の実施を受けた守谷市独自のカリキュラムの整備を行っているところである。</p> <p>話すこと（スピーキング）の評価もより一層重視されることから、特に中学校において、生徒の自己表現（パフォーマンス）を指導し評価する機会を増やすことが課題となっている。</p>	<p>授業参観を主とした研修を、今年度は2回実施する。</p> <p>全小学校で、教職員の指導力及び英語力向上を目的とした校内研修を、放課後の時間を活用し、委託会社と連携して実施し、授業力向上を図る。（7月から12月）</p> <p>市教委主催によるイングリッシュ・フォーラムを開催し、小学生はスピーチプレゼンテーション、中学生はプレゼンテーションを発表する機会を設定し、より外国語による発信力を向上させる。（2月）</p> <p>定期的にALTミーティングを開催し、ALTの資質向上を図るとともに、情報共有を図ることで各校における指導の統一を図る。（年7回）</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>新学習指導要領の実施に向けた研修や授業研究を、教師とALTが合同で行い、小学1年生からの外国語教育の学びの連続性を確認し、継続的に授業改善を行っている。</p> <p>授業者とALTの業務上の連携に関して、小学校では学校ごとに外国語の授業の指導力や英語力を高める校内研修を、委託会社と連携して実施する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
<p>小学校高学年の教科化に伴う授業時数増やALTとの外国語の授業へのニーズが高まる中、大規模の小学校においては外国語の授業全てにALTがかかわることがむずかしくなることが想定される。そのため、大規模の小学校へのALTの複数配置を図ることで、これまでのALTとの外国語の授業の質が保たれると考える。</p>	<p>今年度から、市内4中学校の中学2年生にを対象に、オンライン英会話を10回実施した。また、前年度から継続して教職員がALTと共に授業を行うための英語力や指導力向上を目指した校内研修を全小学校で実施した。ALT同士のアイデアを生かした英語による小中・小中交流学習を行った。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
英語活動・外国語活動を「楽しい」と感じている児童の割合（%）	0.00	92.00	89.20	90.40	91.20	90.50	92.00
中学校3年時における英語検定3級以上の取得率（%）	0.00	45.00	51.00	52.10	47.89	53.10	55.00
成果の動向（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>「英語活動・外国語活動を楽しい」と感じている児童の割合は、昨年度から減少はしているが、90%以上の児童生徒が楽しいと感じている。中学校3年生の実用英語検定取得率はコロナ禍であったが、取得率は向上した。教職員とALTによる指導力や英語力を向上させることを目的とした校内研修や、児童生徒が英語を発表したりやり取りしたりする機会となる市独自の取組により、外国語の授業が充実するだけでなく、英語に係るコンテスト等に積極的に参加する児童生徒が増えた。ALTとの関わりを通して、学校外の英語の行事に参加したり、資格試験に挑戦したりする児童生徒は増加している。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>中学校の新学習指導要領の完全実施となり、小中学校において児童生徒の自己表現活動を十分に行い、英語を活用しながら学習を深める重要性が増している。そのため、特に中学校に複数配置した、ALTとのやり取りや指導を通して、児童生徒の外国語の習熟を図ることが必要である。今後は、オンライン英会話を中学全学年に実施する。</p>					

コストの推移						
項目	R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込	
事業費	計	68,099	84,975	87,805	99,233	99,233
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	68,099	84,975	87,805	99,233	99,233
正職員人工数（時間数）	528.00	671.00	860.00	0.00	0.00	
正職員人件費	2,166	2,716	3,327	0	0	
トータルコスト	70,265	87,691	91,132	99,233	99,233	